

2008 年度／経済学部自己点検・評価報告書

【 I 】 経済学部 2009 年カリキュラム改定のポイント

【 A 】 1 年次生には、経済学部生としての基礎力をつけるよう、履修上の選択の幅を小さくした。

① 1 年次に必修科目を集中

前期に基礎演習、ミクロ経済学、後期にマクロ経済学、歴史と経済を配置した。

ゆとり教育の影響、学力の低下、インターナショナル・プログラム（以下 IP）の充実等は考慮しつつも、2003 年カリキュラム改編以降、1 年次前期には、ミクロ、マクロを入れずゆるやかなスタートとなるカリキュラムで取り組んできたが、2 年次以降の科目配当への支障や最近の経済学部生の成績向上を鑑み、1 年次に必修科目をまとめ、基礎力を養成するよう変更した。

② 数学系・英語系（IP 科目）以外の専門選択科目は、2 年次以降に配置

1 年次前期にミクロ経済学、後期にマクロ経済学を配置したのに伴い、1 年次前期に数学（経済数学入門 A・B）、経済数学 A（線形代数）、後期に経済・経営のための統計入門と経済数学 B（解析）そしてコンピュータプログラミング入門を配置し、それ以外の専門選択科目（IP 科目は除く）は 2 年次以降に置くように変更した。

【 B 】 2 年次からのコース制を 3 コース制に集約

これまでは 7 コース制が敷かれていたが、学生の履修科目が偏る傾向があり、各コースの導入科目として位置づけていた経済学部としての基幹科目でさえ、履修が偏っていた。

③ 3 コース制

コース制を「理論・数量・金融コース」、「現代日本経済コース」、「歴史・グローバルコース」の 3 つに集約し、各コースから 16 単位以上の修得を課した。

2008 年度生までの 7 コース制は、各コース 20 単位以上の修得が課せられていたが、これには演習 I～IV（計 8 単位）と卒業論文研究（4 単位）が入っており、演習を取る学生には、事実上、コースの導入科目である 8 単位のみでの修得で、卒業条件はクリアされていた。

しかし、今回は演習と卒論を除く 16 単位以上の単位修得を課している。

④ 2 年次においてコースにまたがる基幹科目に対して 16 単位を選択必修とした。

ミクロ経済学中級、マクロ経済学中級、基礎統計学、金融論、財政学、公共経済論、日本経済史、開発と貧困の経済学のなかから、自分が選択したコースにかかわらず、4 科目 16 単位以上を修得することを課している。

⑤ 各コースの選択専門科目に、後述の J A S 科目を入れ、英語で専門科目を学べる機会を広げた。

⑥ 法律科目として、これまで旧来の民法と商法を経済学部専門科目として配置していたが、これらをできるだけ経済に関連する法律科目とするよう、法と経済 A、同 B

に変更した。

合わせて経営関係の科目は、大幅に削除し、簿記基本原理、簿記演習、会計学を2年次以降に履修年次を変更した。

【C】Japan Asia Studies (JAS)の開設

⑦これまで I T P 530 点以上の学生を対象として開講していたレベルⅢを Japan Asia Studies (以下 JAS)に変更。

これまで I P では日本人学生が英語能力を高め、海外交流校等留学先で履修・修得した経済学専門科目を本学において単位認定してきた。今回、このプログラムを大きく前進させ、日本人学生そして留学生が一緒になって、創価大学のキャンパス内で日本経済、アジア経済、そして経済学の基本科目を英語で学べる J A S を開講した。

開講予定科目は、以下の通り(*はコース制に入る科目 ②は2単位科目を示す)。

- ・ Intermediate Microeconomic Theory *
- ・ Intermediate Macroeconomic Theory *
- ・ Statistics I ② *
- ・ Statistics II ② *
- ・ Contemporary Japanese Economy ② *
- ・ Japan in the World Economy *
- ・ Economic Issues of Contemporary Japan: Omnibus② *
- ・ Economic Development *
- ・ Economic Development of Japan② *
- ・ East Asian Economies *
- ・ Japan in Asian Economy②
- ・ Chinese Economy I ② *
- ・ Chinese Economy II ② *
- ・ International Management
- ・ Human resources Management in Japan and Asia②
- ・ Business and Japanese People②
- ・ Socioeconomic Development of India②
- ・ World Economy I ~ IV ②A~D④
- ・ Economics Lab I ② Economics Lab II ②

⑧その他 I P 科目における変更・追加

これまでの IP 科目であった Global Economy, Economics A (Micro Economics), Economics B (Macro Economics) を、それぞれ Lecture 科目と明示し、これまで E A P としていたものを Laboratory として、それぞれに配置した。

また、留学帰国学生が留学先で修得してきた単位が、時間数の換算の問題により、本学の科目と適応しないケースが多かったので、今回こうしたケースの単位認定科目(3単位)「International Economy 1~8」を経済学部専門科目として追加した。

【D】その他

- ⑨履修者がいない等の理由で開講が続いていた科目をカリキュラムからはずし、カリキュラム全体のスリム化を図った。

【II】経済学部 2009 年カリキュラムを評価する仕組み：今後の予定

【A】AP, CP, DPを導入

アドミッションポリシー（AP）、カリキュラムポリシー（CP）、そしてディプロマポリシー（DP）の間に一貫性・整合性が図られているかを検討・点検できる仕組みを構築する。

【B】学習ポートフォリオの導入

学生の学習履歴が明確になるよう学習ポートフォリオを学生に各自で作成させ、基礎演習担当教員、専門演習担当教員がチェックを行うことによって、これまで以上にアカデミックアドバイザーとしての機能を充実させていく。

【C】外部評価の導入

カリキュラム向上そして経済学部のより一層の発展にむけて、他大学の教員・スタッフ、企業関係者、そして本学卒業生等からカリキュラムを含め経済学部の教育や取り組みに関して意見を聞き、外部からの評価を仰いでいきたい。